

「感染したら恐怖」が身近に……

●新型コロナとの長い戦いを覚悟する必要がある

「自粛」が始まって3週間を過ぎたが、の緊急事態宣言は、大方の予想通りに5月31日まで延長されることになった。

新型コロナとは、今年から来年にかけて戦っていかなければならないと専門家が言っている。そういう状況になっていることに、私たちの頭を切り替えることが必要だ。

100年前のスペイン風邪の時は、ある程度の人を時間をかけて罹患し、免疫ができて、収束したとのことだ。余談だが、スペイン風邪の発生源は、アメリカが有力だということを初めて知った。

2020年の今は、進歩した科学、医療技術で乗り越えねばならない。

ところが、いまだに日本は、PCR検査が進まず、医療崩壊一步手前の状況で、世界の対策よりも遅れていると言わざるを得ない。

その原因は、間違いなく、国、厚労省の感染対策のまずさにあると思う。その影響を受けて、新型コロナの特徴である「事態が急変して」の死者が出始めている。

私たちにも感染のリスクが高まっていると思う。

我が家では、妻が、指先の皮膚がんで今週まで放射線治療を行っていた。他への転移もなく、指先なので、まったく大丈夫と私は思っていたが、毎日検温していて、平熱以上に上がると、あたふたしている。「免疫が下がっているので、気を付けて欲しい」と、怒られてしまった。手洗いなどの感染対策も厳しく実行するようにも言われている。

さて、都内の全パチンコ店が4月30日、ようやく休業となったが、まだ、スーパーや店などやっているし、テレワークも5割くらいで、窓口など接触がある職場、通勤電車などでの感染リスクは多く残っている。

●看護師さんからのメッセージ

そういう点で、感染した場合、どうしたらよいか不安になっていて、今は感染を身近に感じている。

そこで、現役看護師さんの現場のレポートが手に入ったので以下、紹介したい。

新型コロナは感染してから7日から10日で症状が出るとのこと。そこで、まず、感染したのではないかと思うには、①最初に倦怠感が出る②頭痛が必ずある③下痢も多い④味覚・臭覚が無くなる⑤微熱が続く、39度台まで上がる、37.5度以上がずっと続く⑥咳や痰が出る⑦息切れがする——などの症状が現れたらすぐに、医者にかかって欲しいと言う。場合によっては救急車を呼ぶことも必要だと言う。そこでPCR検査を受けて陽性だと、軽症以外は、入院することになる。入院したら一切面会禁止。現金や持参薬も持ち込み禁止だそう。まだ治療薬がないので、対症療法のみで患者の免疫力で回復を待つしかない。そして、万が一の場合、火葬してから遺族に遺体を返すことになる。

こう言われると、感染しては「本当にまずい」と思う次第である。

検査結果が出るまで、症状が軽い場合、医者から解熱剤などをもらって、自宅待機となるようだが、症状が改善しない場合は早めに、また、医者にかかる必要があると言う。新型コロナは、一気に重症化することがあるので、ためらっては、命が危ないそう。ここが、この新型コロナの恐ろしいところだそう。

家族が感染したらその他の人もほとんどが陽性になるとのこと。したがって、自宅療養は間違いという。

PCR検査には、保険証と現金が必要。検査だけで、1,000円程度、肺のCTを撮影すると6,000円程度かかるそうだ。

さて、感染しないようにするには、どうしたらよいか。①手を入念に毎日洗う②8時間睡眠をとる③現金や人のさわっている手すり、ドアノブ等は触らない④密になっている場所、店、病院にはできる限り行かない⑤帰宅後は、消毒してから家に入る⑥マスクは一日一枚で、表面は絶対に触らない⑦タクシーは乗らない⑧接触しなければならない場合、2メートル以上離れるか、相手の飛沫を受けないように、マスクやフェイスガードする——など徹底するとよいと言う。これを全部実践するのは結構、難しい気もする。

いずれにしても、長期間の「自粛」は難しい。感染拡大を小さくさせ、「自粛」の期間を短くすることが必要だ。それには、医療機関の崩壊を防ぎ、「自粛」の効果を上げるための補償が政府に強く求められる。

また、私たちが感染しないことも重要だ。早く、日常に戻り、労働組合の活動ができることを祈っている。

(20/05/01/議長・小林秀治)

※皆さん方の投稿をお待ちします。

花見のできなかったみなさんの気分転換として (20/03/20/幸手市・権現堂桜堤)

